

奴隷以上の者 ビレモン 8-17	2024. 11. 10、丘の上 NO. 737 春日部福音自由教会 山田豊
-------------------------	---

このピレモンへの手紙は、ローマにおいて獄中にあったパウロが、協力者ピレモンと二人の仲間（アピアとアルキボ）およびフィレモンの家の教会にあてて記したものです。エペソ人への手紙、ピリピ人への手紙、コロサイ人への手紙と併せ、この4通は獄中書簡と呼ばれています。本書は短い書簡なのですが、読むたびに違った箇所、み言葉から気づきや示唆を受ける不思議なパウロの手紙といった感じを受けます。

この手紙を書いたパウロの願いは、17節にはっきり書かれています。

ですから、あなたが私を仲間の者だと思えば、私を迎えるようにオネシモを迎えてください。

ここに出てくるオネシモという人は、かつてピレモンの奴隷、しもべだったのですが、不義を働いて主人であるピレモンの元を逃げ出したようです。どこかで獄中のパウロと出会い、回心しキリスト者となり、パウロの元で仕えていたのです。「獄中で産んだわが子オネシモ」という表現から、そのことがわかります。パウロはこのオネシモが、かつては役に立たない者であったが今は役に立つ者となったので、ピレモンのもとに送り返そうとしているのです。「彼は私の心そのものです」と言って、自分を迎えるようにオネシモを迎えてほしいと、願っているのです。いろいろ負担をかけることがあったら、それも私が償おうというほど、パウロは彼のことを心にかけていたのです。師匠でもあるパウロからここまで言われてしまえば、ピレモンはこの後オネシモを受け入れ、教会の中で新しい交わりを築いていったことなのでしょう。コロサイ 4:10 などからそのように推測することができます。

手紙の最後の部分に、気になる二人の名前が出てきます。マルコとデマスです。マルコは、かつてはパウロから伝道旅行に連れ行くことを拒絶された人物です。しかし「ルカだけが私とともにいます。マルコを伴って、一緒に来てください。彼は私の務めのために役に立つからです。」とパウロ最晩年の書簡、テモテへの手紙第2に書かれています。マルコは役立つものとなっていたのです。しかしデマスについては、「デマスは今の世を愛し、私を見捨ててテサロニケに行ってしまいました。」と記されています。役立たない者になってしまったのでしょうか。

神は私たちが高価な宝であり、神と人のために無益な人だれもいないと言われます。オネシモはキリストにあって新しくされ、奴隷以上の神のしもべとして、新しい人生を始めたのではないのでしょうか。

引用聖句

コロサイ 4:9 また彼は、あなたがたの仲間の一人で、忠実な、愛する兄弟オネシモと一緒にいきます。この二人がこちらの様子をすべて知らせます。

使徒 15:37-40 バルナバは、マルコと呼ばれるヨハネと一緒に連れて行くつもりであった。38 しかしパウロは、パンフィリアで一行から離れて働きに同行しなかった者は、連れて行かないほうがよいと考えた。39 こうして激しい議論になり、その結果、互いに別行動をとることになった。バルナバはマルコを連れて、船でキプロスに渡って行き、40 パウロはシラスを選び、兄弟たちから主の恵みにゆだねられて出発した。

コロサイ 4:10 私とともに囚人となっているアリストタルコと、バルナバのいところであるマルコが、あなたがたによろしくと言っています。このマルコについては、もし彼があなたがたのところに行ったら迎え入れるように、という指示をあなたがたはすでに受けています。

コロサイ 4:14 愛する医者ルカ、それにデマスが、あなたがたによろしくと言っています。

2 テモテ 4:10 デマスは今の世を愛し、私を見捨ててテサロニケに行ってしまいました。また、クレスケンスはガラテヤに、テスはダルマティアに行きました。

1 ヨハネ 2:15-16 あなたは世も世にあるものも、愛してはいけません。もしだれかが世を愛しているなら、その人のうちに御父の愛はありません。すべて世にあるもの、すなわち、肉の欲、目の欲、暮らし向きの自慢は、御父から出るものではなく、世から出るものだからです。世と、世の欲は過ぎ去ります。しかし、神のみこころを行う者は永遠に生き続けます。

イザヤ 43:4a わたしの目には、あなたは高価で尊い。わたしはあなたを愛している。

2 ペテロ 1:8 これらがあなたがたに備わり、ますます豊かになるなら、私たちの主イエス・キリストを知る点で、あなたがたが役に立たない者とか実を結ばない者になることはありません。

古代ローマにおける奴隷制度

古代ローマもギリシアと同じく奴隷制社会であったが、ギリシアが家内奴隷が主であったのに対して、ローマは奴隷制による大土地所有制(ラティフンディア)が発達した。また奴隷の数も膨大で、ローマの征服戦争によって属州としたところから得られた捕虜がその供給源であった。奴隷は人権は認められず商品として売買され、奴隷主に服従した。奴隷の中にもその身分から解放されて解放奴隷となるものもあったが、ローマでは解放奴隷の中から市民権を認められる者もあった(ギリシア・アテネの奴隷は解放されても市民権は与えられず、在留外人とされた)。また奴隷の中には、武術に優れた者を剣奴(剣闘士奴隷)とする特別な

場合もあった。彼ら奴隷は厳しい搾取のもとにあったので、前2世紀ごろからしばしば奴隷反乱を起こした。シチリアの奴隷反乱に続いて、前1世紀には剣奴(剣闘士奴隷)が蜂起してスパルタクスの反乱が起こり、ローマ共和政を動揺させた。

ローマ奴隷制は帝政時代も継続するが、ローマ領が最大となり対外戦争が行われなくなると次第にその供給が減少し、またあいにく奴隷反乱によって、奴隷の待遇も少しずつ向上し、コロヌス制に移行していく。(世界史の窓 HP より)

●船越先生の働き

11月3日(日)、NHK「こころの時代」で、ウクライナで26年間活動している船越真人、美貴牧師夫妻の働きが放送されました。ロシアによるウクライナ侵攻前から、働いておられる牧師先生です。昨年の丘の上作品展での募金を送った先の、ウクライナ難民を支援する会ともつながりのある先生です。

この放送の最後のほうで、いわれたことが心に留まっています。

今まで自分の福音理解がやわなものであった、しかし、この福音を提示したい。戦争を体験してきた兵士たちが「『お前たちにはわからない』と言われてしまうその悲惨な状況、罪をイエス・キリストがあのかross架でおってくださったんだ、ということをもう一回思いますね。」と。

まさにその通り、アーメンです。ピレモンの奴隷であったオネシモ、役に立たない者であったオネシモは、パウロと出会うことによって救われ、ピレモンのためだけでなく、パウロにとっても、教会にとっても、そして何よりも自分自身のためにも、役に立つ者と変えられました。

私たちは、罪という縄目に縛れている奴隷です。しかし、十字架にかかってくださったイエス・キリストは私たちを愛して、罪の奴隷から解放してくださったのです。クリスマスの讃美歌に歌われています。「悪魔の(獄屋)ひとやを打ち砕きて、捕虜(とりこ)を放つと、主は来ませり、主は来ませり、主は来ませり」(新聖歌 76)→罪の奴隷という牢獄を打ち砕き、そこからは解放してくださる主イエスが、私たちのために来てくださっているのです。

「わたしの目には、あなたは高価で尊い。わたしはあなたを愛している。」(イザヤ 43:4)と神は言われます。また、ペテロはその手紙の中に「私たちの主イエス・キリストを知る点で、あなたがたが役に立たない者とか実を結ばない者になることはありません。」(2 ペテロ 1:8)と書いています。

罪の奴隷から解放し、あなたは役に立つ者だ、と言ってくださる主イエスと共に、新しい週を歩ませていただきます。